

あがつま



「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

(ローマの信徒への手紙 12章1節)

♪ 賛美歌を歌おう ③ 『勝ち歌うたい』

(讚美歌第二編 90番)

吾妻教会では、受難節の主日礼拝での頌栄として、この賛美歌の5節を用いています。原作者のヴェナンティウス・フォルトウナトウス(530-609)は、初代教会の司教で、ラテン語の詩人でした。北イタリアに生まれたフォルトウナトウスは、重い眼病を癒された感謝から巡礼の旅に出ました。フランス西部のポワティエに滞在中、メロウイング朝の王妃ラデグンダ(520-587)に重用され、聖遺物修道院の聖職者となり、さらにはポワティエの司教に任命されました。聖遺物修道院は、もともと聖マリア修道院として建てられました。東ローマ帝国の皇帝ユスティヌス2世から「真の十字架」の断片を贈られた

ことで聖遺物修道院と改名されています。ちなみに真の十字架とは、イエス・キリストが張り付けにされた十字架のことで、ゴルゴタの丘から見つかったものだと言われています。が、いくつかの不審な点が指摘されており、信憑性はあまり高くないと云えます。

ラテン語で「舌よ、歌え」と歌い出すこのグレゴリオ聖歌は、カトリック教会の聖務日課に使用され、聖金曜日(キリストが十字架につけられた記念日)には、必ず歌われています。わたしたちが用いている讚美歌(54年版)のなかでも、最も古い歌の一つです。ので、これからも大切に歌い継いでいきたい賛美歌です。

(稲垣)

